

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

導出過程を書かせる問題が減少した。

出題の特徴や昨年との変更点

全問とも解答を記述する形式であり、一部には計算の途中経過を書く設問もあった。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔Ⅰ〕	空所補充 問形式 (記述)	力学 ([A]単振動 [B]摩擦のある 水平面上での ばね振り子)	物理	[A]x-y 平面上での等速円運動の x 軸方向の運動 についての問題である。図を書いて考えると良い。 [B](1)~(6)は摩擦が働くばね振り子を仕事とエネ ルギーの関係を用いて考えさせる問題である。(7) では図4から物体Aの速度が常に負であることに 注意する必要がある。	標準
〔Ⅱ〕	問形式 (記述・選 択)	熱 (熱気球)	物理	熱気球に関する典型的な問題である。物理量が文 字や数値で与えられているので、それに合わせて 適切に答える必要がある。	やや易
〔Ⅲ〕	問形式 (記述)	電磁気 (電磁誘導)	物理	導体棒に生じる誘電起電力に関する典型的な問題 である。導体棒の速さが一定になるとき、導体棒 に電流が流れていないことに注意すればよい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

広い範囲をまんべんなく学習し、物理量や物理法則の意味するものを正しく理解するように努めることが大切である。

入試問題の演習を行い、計算力を高めておけばよいだろう。